



ネリーズ通信

第18号 2021年3月



編集発行責任者 社会福祉法人 練馬区社会福祉協議会

ネリーズ紹介 No.15

ネリーズは日々の暮らしの中で、近隣の方たちとつながっていくことで、ゆるやかに見守りあい、誰にとっても暮らしやすい地域づくりを目指している地域の皆さんです。

教員を退職後、地域で何かできればと考え保護司になり、その活動をされる中で、犯罪を未然に防ぐには学力をつけることが大切だと感じたそうです。保護司としての活動も行い、「どんぐりの家」*で主に小中学生を対象とした学習支援を行っている石井さんに話を伺いました。

*練馬区社協に遺贈された一戸建て住宅で、こども食堂・おとな食堂、学習支援など多世代交流を行いながら地域のつながりづくりの拠点として様々な取り組みが行われています。

地域でできることを！



光が丘地区
石井 真弓さん



学習支援を始めたころは5分と座れなかった子どもが40分座るようになったり、一緒に学習した次の日は宿題が出せる日なんだと生き生きと子どもたちが話す様子など日々成長を感じられます。

コロナの影響で活動を中止し、再開した時に楽しみにして来てくれたり、この活動をして子ども達の笑顔が見られることがとてもうれしいです。一緒に勉強した子どもが教える側となってくれたらいいなと考えています。学習の楽しさがわかり、自分から学習に向かっているようになることを願っています。

学習支援を必要としている方がまだまだいるので仲間を集めて他でも始められたらいいなと思っています。



子ども達のできることを伸ばし、時には近くで寄り添って見守っている石井さんの温かさが伝わってきました。自分でできることはないかと活動をされている石井さん。まさしくネリーズとして活躍されています。

ネリーズほっこりエピソード テーマ『コロナ禍だったけどちょっと笑顔になれたことなど』

田柄の
針替さん



乗ったバスが満員で、私は席に座ることが出来ましたが、後から乗ってきたお母さんと女の子が目の前に立っていて、バスが揺れるたび辛そうでした。勇気を出して『席を譲ってあげたいのだけれどおばあさんだからゴメンネ、膝の上だったらどう？』とその子に言うと嬉しそうに『うん！』とうなずき、私にだっこされました。マシュマロのようにやわらかく、温かかったのを今でも覚えています。

バスに乗るとき前に乗ろうとしたおじいさんが手すりにつかまったものの、上半身が反ってしまい危うく転倒するところでした。僕はとっさにおじいさんの背中を支えて転倒を防ぎ、おじいさんは無事乗車することが出来ました。

田柄の
清水さん



エピソードをお送りいただいた皆様、ありがとうございました!!スペースの関係でいただいたすべてのエピソードが掲載できず申し訳ありません。今回もエピソード募集のFAX用紙を同封しております。投稿をお待ちしております!!

